

第52回 宇部市廃棄物減量等推進審議会議事録

- ・日時 平成27年11月24日(火) 14時から16時
- ・場所 宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール大
- ・出席委員

(会長)	関 根 雅 彦	(副会長)	城 田 久 岳
	木 下 昇		渡 壁 正 英
	前 原 佳 子		竹 中 敏 惠
	鈴 木 春 菜		甲 斐 裕 紀
	茂 山 守		岩 本 輝 行
	森 田 律 子		井 関 祐 子

- ・欠席委員

足 立 美 智 子	千 々 松 智 恵
稲 沢 満 義	河 村 竜 太

- ・事務局

市民環境部長	石 部 隆
市民環境部次長	秋 田 浩 二
廃棄物対策課長	長 岡 哲 雄
環境保全センター施設課長	黒 瀬 寛 文
廃棄物対策課長補佐	本 多 光 代
環境保全センター施設課長補佐	向 上 正 美
環境保全センター施設課長補佐	師 井 康 文
廃棄物対策課資源循環推進係長	上 田 康 次 郎
廃棄物対策課資源循環推進係主任	大 田 康 二
廃棄物対策課資源循環推進係主任	内 海 里 美
株式会社東和テクノロジー	

- ・資料

- 1 宇部市一般廃棄物処理基本計画(素案)
- 2 宇部市一般廃棄物処理基本計画の概要
- 3 平成28年度地域エネルギー事業・生ごみバイオガス発電事業実施可能性調査

- ・次第・議事録

- 1 市民環境部長あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 議題 宇部市一般廃棄物処理基本計画(素案)について

会長	本日の議題は「宇部市一般廃棄物処理基本計画（素案）」です。それでは事務局から説明をお願いします。
事務局	審議会資料「宇部市一般廃棄物処理基本計画の概要」により説明
会長	質問もあるかと思いますが、話の中で出てきた抜本的な対策の1つになろうかという事で、市の方でバイオマスの利活用を考えておられるということですので、続けて事務局から説明をお願いします。
事務局	<p data-bbox="300 409 1511 488">審議会資料「平成28年度地域エネルギー事業・生ごみバイオガス発電事業実施可能性調査」により説明</p> <p data-bbox="300 555 1511 925">計画概要説明の中で市民ワークショップなどで、水切り・段ボールコンポストの取組に着目されているという話があったと思います。宇部市のごみ処理は17万市民で年間約18億円の経費がかかっております。1人当たりで単純に計算しますと約1万円の経費を投入していることとなります。これまでも分別・水切り・段ボールコンポストといった様々な取組をし、18億円という処理経費を少しでも削減したい、もちろん、年間約6万tのごみが出ていますので、ごみを減量することも大きな課題であったと思います。そういった事を見据えまして、資料のような事業の検討を進めてまいりたいと思っております。</p> <p data-bbox="300 947 1511 1653">具体的には、生ごみを発酵し、メタンガスを発生させます。湿式の方法で行いますと肥料となる液肥が発生します。また、メタンガスにより電力と熱回収を行うことができます。この電力については、将来的に電力を買い取って市民の皆様へ供給していきたいと思っております。先程、液肥と申しましたが、この液肥によって農作物を作り、調理をするということで、1周し、100%リサイクルで食品リサイクルループが出来上がります。こういった構造を作ることにより、生ごみを資源とし、電気・熱・液肥を作り、農作物を作るための肥料にしようと考えております。実際にはこの事業は、平成27年度の環境省の事業で、試験的に行うとどういったことが考えられるかを実証している最中です。燃やせるごみの中で生ごみは約1万トン、家庭系・事業系含めて出ております。これをただ燃やすのではなく、生ごみバイオガス発電事業といった形で循環させていきたいと考えております。現時点では可能性調査ということで、実際には様々な問題があると思います。採算性がなければ出来ないと思いますし、生ごみの収集方法、場所の問題や農地の還元方法等、今現在、調査をしている段階です。この事業をごみ減量の1つの大きな手段、方策として考えております。</p> <p data-bbox="300 1675 1511 1798">また、来年2016年の4月からは電力の自由化が始まります。そういったことも踏まえて、新電力ということで宇部市が中心となって電力会社を立ち上げていきたいと考えております。</p>

会長	<p>ありがとうございます。事前に聞いた話によりますと、もともと私達が議論する予定であった、ごみ袋の有料化についてもこの事業と絡めて、生ごみを出しやすい方向に誘導するような方策として使えないかということで、この事業がもう少し具体化してから審議をして欲しいという話を聞いております。新しい施設が必要な事業ですので、よく考えて検討で終わらず、是非、実現性のあるものにしていただきたいと思います。</p> <p>話を最初に戻しますが、前回の審議会から今日の審議会までの間に、市民ワークショップやアンケートを実施しました。しかし、具体的な新しいアイデアはなかったという事、また、分別の認識は進んでいるが、その他の施策に関しては認識減になっている、というのが正直なアンケートの結果だろうと思います。先程説明いただきました概要の中身は、目標値の設定を変えることは難しい、最初は市民の意識があり減量分別等進んでいたが、長く続けることが難しくなり意識が下がってきている事をもう一度啓発する。プラス新しい事業に絡めて、普通に行えば991g/人日、新たな事業でなんとか840g/人日を目指すという計画をお話いただきました。では、質問意見等、伺いたいと思います。</p>
会長	<p>数字の見方で不明な点があるのでお聞きしたいのですが、「計画（素案）P3-22 の図表 3-26 減量目標の表」ですが、パーセンテージの記述の見方がわかりにくいのですが。</p>
事務局	<p>この表の見方ですが、焼却場の組成分析から、ごみの中の厨芥類は 26.1%の割合です。その厨芥類を水切りや段ボールコンポストで 15%削減していき、26.1%から 15%削減し、3.9%にしていきたいと思いますという表になります。</p>
会長	<p>厨芥類を 15%減らすということですが、水切りだけだと、どの位の割合になりますか。</p>
事務局	<p>水切りだけだと一般的に 10～15%と言われております。ただ、理想値になろうかと思っておりますので、段ボールコンポストの減量とあわせて 15%と設定しております。</p>
会長	<p>そうすると、生ごみバイオガス発電事業が実施されたら、減量に対してどこまで影響を及ぼすのかというのはどう見積られていますか。</p>
事務局	<p>生ごみ全部がなくなるというのは、なかなかないだろうという事で、「計画（素案）P3-24 の図表 3-28 減量目標（目標達成）」ですが、そこでは厨芥類を 50%削減、半分を減量しようという目標にしております。</p>
会長	<p>わかりました。ありがとうございます。他に質問はありますか。</p>
委員	<p>市民の自発的な行動が重要だと思います。ごみ袋有料化のような利害関係に働きかけるだけだと市民の意識は変わらなくて、実際にリデュース・リサイクルに関しては市民の意識が減少しているという事もあります。市民の意識に働きかけるというところで、今まで通りだと下がってしまうという可能性がありますので、どのような対策を考えてらっしゃるか、例えば、こういう取組をしたらこれくらい減ります、といったような具体的な取組をもっと周知していく事が必要ではないかと思えます。</p> <p>もう一点、目標値の設定です。設定の根拠がよくわからず、これはごみ減量に対する市民の皆様の態度に影響する所だと思います。222g/人日減少したらどうなるのか、ということがわからないと、例えば、経費を削減したらこういう事に使いますとか、高齢化により税収が減るので、この部分に対応するとか、ごみの減量化が正しいとい</p>

	うのはわかるのですが、この 222g/人日減量の根拠をもう少しわかりやすくしていただくと、ごみを減らそうと思う事に繋がるのではないかと思います。
事務局	<p>確かにアンケート結果をみますと、市民の意識が低下しているのではないかと思います。この基本計画は、大きな方向性についてはこの計画の中で記載し、整理をさせていただきます。先日のワークショップでも市民の方から分別・取組メニューは宇部市は充実しているという評価をいただきました。その中で不足しているのはやはり情報の発信、周知ということで、ワークショップでは大学生に参加していただきました。その中の意見として、若い世代・学生への情報発信をもっと工夫して欲しいということでしたので、この計画には具体的な取組は記載しておりませんが、例えば、啓発チラシの中で大学生の方へQRコードを貼付けて、すぐアクセスしていただくとか、指摘要望のあったことは速やかに取組んでいっております。今後も説明会やごみ減量等推進員との研修会もございますので、機会をもっと増やし、情報発信を工夫していこうと考えております。また、可燃ごみ減量対策は食品ロスの削減が重要と考えております。宇部市もメンバーに入っております、県の食品ロス削減協議会での取組もございますので、その情報をもっと発信していけたらと思っております。</p> <p>2番目の目標値ですが、当初の計画を策定する段階の平成19年度の環境省の調査で、人口10～50万人の都市部門で第10位の原単位ということになっております。非常に挑戦的な目標の設定となっておりますけど、これから様々な施策を講じることによって、高い目標を定めて進めていこうという事でございます。リサイクル率についても類似都市区分の中で第5位という目標設定にしております。当時は目標設定する際は、全国の中でも高いレベルを目指そうという思いで設定をしております。</p> <p>減量効果の明記について、ごみ処理経費にはどのように影響があるとか、こういった施策に経費を転換するとか、この計画については詳細に示しておりませんが、今後、個別の施策を推進する中では情報発信していきたいと考えております。</p>
会長	先程の質問内容は、222g/人日減少した時に結局、町がどうなっているのかということを目に見えるように説明して欲しいということで、例えば、222g/人日を削減するためにはバイオガス発電がいるのか、発電ができた暁には市内の小中学校の電力がまかなえるとか、自分達は何に対して減量努力しているのかという目標を与えて欲しいという意味です。市民を巻き込むなら実際に実現していただき、実現した暁にはこうなりますという所まで言っていたらいいと思います。意見をよく考えていただき、見える目標を作りあげていただきたいと思っております。
委員	会長に補足していただいた通りですが、自分達がただ我慢するというだけでなく、自分達のライフスタイルを変えていけるような、消費行動、生活の仕方を見せていただかないと、ただ我慢するだけではやりたくないと思っております。私は大学で学生に、「本を読みなさい」とだけ言うと読まないで、「教養を身に着けるために、本を読みなさい」と言っております。同じように、これができるようになったら、こういう町ができますよ、こういうライフスタイルになりますよとかがないと、ただ減らすことが目的になっていて、本当は減量化を通じて、良いライフスタイル良い市を作ることが目標だと思います。国の上位計画の循環型社会の実現という事で町のイメージの記載がありますが、そういう記載があると良いのかなと思っております。

事務局	<p>バイオガス発電のお話だけでなく、ごみ袋制度の見直しをするとなった場合には、先程言われたとおり、1つの大きな目標として、ごみを減量するという事があります。では何故ごみを減らすのか。どんどん使って捨てていけば良いというのではなく、やはり循環型社会を作るためにごみを減らそう、一生懸命分別し、生ごみを別々に出したりというのは何に繋がるのかという事ですが、様々な市民ニーズもあるかと思えます。これからどんどん人口減になっていく中で市民ニーズも変わってくると思えます。今まで通りのサービスではいけないということで、ごみの収集というカテゴリの中では高齢者のごみ出し支援など行っております。先週、市内10か所で「うべの情報知っちゃる会」を開催し様々な情報を流しており、新たな市民ニーズも生れてきます。ごみ袋に手数料をつけて、ただ市の歳入にするのではなく、新たなサービスに切り替えていく、先程の高齢者のごみ出し支援では、ただ市が回収に行くのではなく、中学生・他世代と交流しながら支援していくなど様々な形があると思えます。こういうことが出来るようになるならしっかり分別しようという、市民に見える形で情報発信していきたいと思えます。バイオガス発電についても循環型社会を構築していくための1つのコマと思っております。5年10年先を見た時に、自立した地域を形成できるような諸施策を考えていきたいと思っております。</p>
委員	<p>「計画の概要（8）の市民ワークショップでの個人・家庭で取組める方法」で「資源ごみの分別・エコバック持参・過剰包装を断る・草木の乾燥・食べ残しをしない」とありますが、私の町内は高齢化が進んでおりまして、私は77歳ですが、町内の中では若手になります。この取組はわたしの町内では当たり前です。それで分別がいやだとか、いつも我慢しているということは一切ありません。荒ごみに関しては当番がおりますので、わからなければ当番が分別しています。ごみを分別する事が面倒臭いという感じはありません。</p> <p>もう一点、説明のありました食品リサイクルループや、太陽光によって電力を作るとかは、大手の企業が入って収益にするのではなく、地域にあるエネルギーは地域で回していく事が将来的に希望あることだと思えます。生ごみバイオガス発電事業もその中の1つの施策と言われましたが、実現可能になるよう頑張りたいと思えます。こういった事業は非常にお金がかかると思えます。国内で地域エネルギーを実践しているところを見ますと、市民や市内の企業がお金を出しあって、ファンドというものをしていると聞いております。ただ、ごみを分別するだけでは面倒臭いと思えますが、こういう事業だと、希望がありますので、協力もできると思えます。</p>
会長	<p>企業は設備投資などで時間がかかるかもしれませんが、市民を本当にやる気にできたら一変にごみ量は下がると思えます。その代わりに、意識を長続きさせることの方が難しいと思えます。そうすると、この計画のメニューが多すぎて頭に残らないような気がします。例えば、実現は難しいと思えますが、今年はこの取組でいきましょう。地区ごとで競争したり、翌年は別のテーマにしたり、忘れた頃に最初のテーマにしたりとか、そういう考えがあってもいいのではないかと思います。</p>

委員	<p>2、3年前にこれだけ水切りしたら、お金が余って色々な方面に使えますよという記事が新聞に出てたと思います。町内ではかなり盛り上がっていましたが、今は終息しております。やはり何か見返りが必要だと思います。</p>
委員	<p>「計画（素案）P3-24、P3-25 の抜本的な対策を並行して行う際のごみ減量の試算」についてですが、収集ごみでは厨芥類 50%、布類 50%削減など、直接搬入ごみについても厨芥類 50%、布類 50%削減となっておりますが、抜本的な対策を、出来ても出来なくても今、何かお考えがあるのかお聞きしたいと思います。平成 33 年になった時に今日と同じような反省になるのではないかと不安になります。</p> <p>もう一点、840g/人日という原単位になった時に、年間 18 億円という処理費がどれ位減額されるのか明記するとわかりやすいと思います。全国で 10 位ということですが、1 位から 9 位の市の取組を羅列されると良いと思います。ただ市民としては 5 位でも 10 位でもピンときませんので、ピンとくるのはやはり、処理費用の減額だと思います。その関連性をしっかりと記載した方が良いと思います。今後の具体的な動きがよくわからないので、わかる範囲で教えていただければと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。確かに厨芥類はバイオガス発電で削減可能かと理解しましたが、他の分類も減っていますので、何か抜本的対策があるのかお聞きしたいと思います。</p>
事務局	<p>厨芥類につきましては、水切り・段ボールコンポストに加えて、啓発強化の中で家庭における食品ロスの削減です。抜本的な対策はやはり、指定ごみ袋制度の見直しによる発生抑制・分別の促進としております。それから生ごみバイオガス事業により一定の協力度を得られることを踏まえて、収集可燃ごみの目標設定をしております。それから事業系ごみ（直接搬入ごみ）につきましても、他市に比べて多いということで、毎年提出いただいている資源化・減量化計画書に基づく指導、今後は更に対象事業所の拡充も含めて取組を強化していきたいと思います。また、食品リサイクル法はすべての事業者が対象となっております。ただし、国への報告義務は年間 100t 以上となっておりますが、すべてが対象となっておりますので、法律の趣旨の PR、事業所訪問の中で取組の協力要請を進めていこうと考えております。抜本的な取組を踏まえての指導啓発の強化という事で目標設定をしております。</p>
委員	<p>すみません、抜本的な対策ではないような気がします。今まで何回も PR し、事業・個人にお願いしてきましたが減ってないです。ごみ袋制度の見直しは抜本的な対策と思いますがそれ以外には何か考えはないのでしょうか。</p>
事務局	<p>家庭系（収集ごみ）については、ごみ袋制度の見直しと、生ごみバイオガス事業の利活用。事業系（直接搬入ごみ）は資源化・減量化計画書がありますが、取組が十分かと言われれば見直すべき所がたくさんございますので、取組方法のあり方を踏まえて指導していければと思います。事業所の把握も十分でないと思いますので、併せて強化をしていきたいと考えております。</p>

会長	<p>だいたいイメージとしては、収集ごみに載っているのが家庭系で、直接搬入ごみに載っているのが主に事業系ですよね。そうすると、抜本的対策がない状態でも事業所に対して 20%の削減を求めている、更に何らかの事業所の抜本的対策の努力により 30%削減を見込んでいる訳ですよね。せめてバイオガス事業が出ましたがそういう何かがあれば、ただ、バイオガスもペイするか微妙に感じますが、更に 30%削減の取組が議論をしたという感じがしないので、私達にも夢を見させてくれる発言があってもよいのではないかと思います。</p>
委員	<p>840g/人日になった場合、年間 18 億円の処理経費はどうなりますか。</p>
事務局	<p>原価というものがあまして、例えば、1 t 当たりの収集に 17,500 円、焼却も同じ位ですが、単純に 1 t 減れば比例して減るという事にはなりません。量が減れば単純には計算できませんが、減ってくると思います。今後、お示しできるよう考えたいと思います。ごみの量がよっぽど大きく変動しない限りは一定のベースになる金額は変わりません。将来的にはごみ処理施設の更新時期にごみ量が減っていれば、建設費用も抑えられますので、今、数値はもっておりませんが、啓発の際には示していきたいと思います。</p>
委員	<p>例えば、18 億円がアバウトで 1 億円くらいの減はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>担当もなかなか口から出てこないというのは、現在の焼却場が 1 日当たり約 200 t の処理能力があります。例えば、1 日 198 t 出て、次の日に 170 t 出たからといって費用は比例して減らず、同じように運転しています。平成 15 年に現在の焼却場を建てていますが、環境省の考えでは約 30 年で更新時期というのが基本的な考えです。現在の焼却場建設費は約 110 億円で、非常に高価な建物ですが、今 3 つの焼却炉で動いており、1 炉 66 t で×3 炉となりますが、単純にごみが減って 1 炉減ると 2/3 費用になるかという共有部分があるので 2/3 にはなりません。1,062 g/人日が 840 g/人日になった時、費用は約 25%削減が出来るのか、約 4 億円減になりますが、そういった事にはなりません。そういった状況のため、なかなか具体的な数字が出せません。ただ、ごみが減ると処理費用が減るのは間違いありません。最初の初期段階から下がるかという、最初は上がっていくのではないかと思います。以前、山大の先生と色々検討させていただきましたが、完全な経費との関係は出てこないという事でした。バイオガス事業で生ごみが 1 万 t 減ったとしても焼却場の 1 炉が減ることには、なかなかありません。今何がベストなのかという事を将来的展望を見据えて計画策定期間の 5 年から 10 年のスパンで見極めながら行わないといけません。</p> <p>また、先程意見を出していただきましたが、バイオガス事業は大手の企業が実施しても意味がありません。地産地消で宇部で作ったクリーンなエネルギーを宇部の皆さんに提供する、そして雇用も発生するというのが基本だと思います。そうは言っても、ごみを減らさないといけない。四国の方ではごみがゼロという所もあると聞いています。そこは農村地域で生ごみも全てリサイクルのようなので可能かと思います。宇部市はごみを減らしていこうと、ただ、今日も事業者の方が来ておられますが、民業を圧迫しては意味がありません。直接搬入ごみのほとんどは事業系のごみですので、そこには生計が成り立っています。また、効果を出すためにはインセンティブを与えて分別が進むようにしていかないとはいけません。先程、市民ファンドとい</p>

	<p>うお話で、大変ありがたく、私達も考えておりましたが、皆様から集まったお金を利用して、さらに太陽光発電などクリーンなエネルギーを生んでいくことも考えております。先進的なドイツのように、地域で起こした会社が地域の中で物と人を回していく、そこまではいかなくとも一歩ずつ前に進んでいかないとはいけません。今はまだ、良いストーリーが出来てないですが、具体的な対応策としては、やはり指定袋というのは大きなインセンティブだと思います。指定袋と絡めて、生ごみだけをしっかり分別することによって得られるバイオガス発電・液肥が、経済・商業ベースに乗って進んでいき、また、いつまでも公共の必要もないと思いますので、民業や地域のコミュニティビジネスに広がっていくというのも将来的な展望ではないかと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>指定袋が大きな一歩という位置付けですが、今まで聞いた説明の中では指定袋がどれだけ削減に繋がるか明確な話がなかったと思います。導入事例が多々あるのでメリット・デメリットすぐわかると思いますが、すぐ飛びついてやりましょうという話もなかったと思います。バイオガス発電にしても、内容のわかる私からするとペイしないのではないかという気がします。やはり大きな一歩としてするのであれば、市民に夢として感じられ説明ができるようにしていただけたら、「よしやろう」という気になるのではないかと思います。</p> <p>直接搬入ごみの厨芥類 50%削減で、以前、山口県でも環境省や企業とで食品リサイクルで検討されていたと思います。事業所から出る未利用の食品を捨てないでリサイクルという事を2年前位だったが検討されており、結果、養豚場があれば良かったが、養鶏場ならあり、そこで飼料の利用はできるが、段々と鶏の便がやわらかくなり、卵には問題ないが、殻が汚れてしまい商品価値が下がってしまうので前に進まなかったという結果でした。もし、本気で市民が減らそうとっていて、企業も努力して多少汚れた卵も売りますということなら、宣伝の仕方によれば買います。やはり大きな一歩を実現するためには熱意と熱意が伝わるための準備がないといけないと思います。私達委員が夢を持たないと市民には無理だと思いますので、ここで説明が聞けて、「それならやろう」とう気になれるものを、ただ押し付けばかりでなく、私達も含めてアイデアを出していかないとはいけないと思いますが、考えていただけたらと思います。他に何か質問ないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>市民アンケートの結果でも、各家庭の主婦はごみの分別回収などしっかりされていると思いますが、家族の中には面倒臭いごみはコンビニで捨てたりしております。主婦は分別をしっかりしているが、家族全員がしているのか、そこが減らない原因なのかと思います。例えば、ガソリンスタンドが遠くてもポイントが付くからそこまで行ったりするので、ごみの分別をすれば、自分のポイントになるというような事があれば良いのではと思います。スーパーの古紙回収でキロ数によってポイントが付いたりする所があります。プラスチックと生ごみを分ければ、自分のカードにポイントが付くと意識的に変わってくるのではないかと思います。</p> <p>また、周りからプラスチックや生ごみを分けても結局、燃やしていると聞きます。もっと、こういう風にリサイクルしているとか、周知すれば意識的に変わると思えます。</p>

事務局	<p>まだプラスチック製容器包装を焼却していると思っらっしゃる方がおられるなら、なお更、地道な啓発が必要になってくると再認識いたします。計画にも記載しておりますが、学校現場の環境教育にも力を入れております。段ボールコンポストだけでなく、パッカー車を持ち込んで、ごみの分別や分けて出せばどうリサイクルされるとか、ごみ処理のフロー図も簡単に説明しております。今現在行っているメニューも更にPRしていかなくてはいけないと再認識しました。</p>
委員	<p>生ごみバイオガス発電事業の計画がありますが、出来たらもう少し具体的に説明いただけたらと思います。設備費も相当額でしょうし、ごみの出し方も随分変わってきますよね。目標だけでは漠然としてわかりにくいと思います。</p>
事務局	<p>具体的に家庭系ごみが原料となった場合には十分に時間をとって、出し方等説明したいと思います。今は可能性を検討している段階です。まず、実証的にやってみて原料については家庭系にするか、一定量確保できる事業所にするかを今、検討委員会を設けて、可能性を諮っております。家庭ごみの出し方に影響する段階になりましたら、早めに説明したいと思っております。</p>
事務局	<p>バイオガス発電についてですが、実際に商業ベースに乗るのかということで、一番に考えているのは入口と出口でして、入口は生ごみです。どうやって分別して集めるのか、から始まり一番問題になっているのは出口の液肥でして、先程の食品リサイクルでの豚の話ですが、飼料として出来た物を本当に使ってもらえるか、その飼料を食べて大きくなった豚が実際にスーパーに並んで買ってもらえるかという所まで含めて、循環ができあがります。液肥の場合も同じで、実際に福岡県の大木町では生ごみを使って液肥を作り、その液肥をバイオガスプラントの周りの畑に撒いて作物を作り、野菜などを作られています。そこに道の駅のような直販所があり出来た野菜などを販売しています。このループがしっかり回って初めて成り立ちます。入口出口をしっかり固めておかないとこの事業は決して上手くいきません。肥料はお金を出して購入されていると思いますが、それが無料になるということでしたら当然良いですが、それが本当に使えるものなのか、キャベツの色味が良くなって、味を味わってもらって初めて流通していく。これを始めて何年も経っているのが大木町でして、宇部市でも小さくてもきちんとしたループを作って、液肥が使われ作物も食べていただける場所までと考えております。</p> <p>今、考えておりますのは1日に1t程度の生ごみを処理できる小さな試験プラントを作りまして、発電能力も一般家庭と同じ10kw程度しか発電しません。1日当たりの処理能力を20、30tとすると何億という費用がかかります。やはり実証プラントですので、数千万程度の小さなプラントで実証実験をして、しっかりとしたループができるという確証が取れた段階で、2号機3号機と作っていきたいと考えております。また、各地域のコミュニティビジネスということも含めまして、耕作地がある程度周辺にというイメージで考えております。</p> <p>収集については大木町ではバケツで収集しており、バケツの底を2重にして、水を切りながら生ごみを収集しています。ただ、町ということですから人口も何千人で農地も多いです。宇部市でマンション・アパートの方が多いい中で、できるのかという話になりますので、バケツ収集という考えもありますが、例えば、今までどおりのビニ</p>

	<p>ール袋で収集し、インセンティブとして無料とし、それ以外は手数料をいただくなど色々な方法を考えております。課題も色々もありますし、一朝一夕に結果もすぐ見れませんので、なかなか良い夢にならないかもしれませんが、正夢になるよう努力していきたいと思います。まず、試作プラントでの可能性の調査を行い、ペイできるかどうか整理していきたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。本日は計画（素案）をどうするかという事でした、今までのお話の中で、削減をした結果、私達の生活がどうなるのか、町のエネルギーの供給体制がどうなっているのかをもっと明確にして欲しいという議論が長かったと思います。地域メリットやポイントが付くという努力がフィードバックされる仕組み、後、非常に大きな重みを占めている抜本的対策の事業系のごみ（直接搬入ごみ）の減量施策が言及されていない。この3点位が不足しているのではないかと思います。例えば、朝起きてからの暮らしはこうなっているとか、シナリオライティング的なものとか、ここまで取組んだらこれだけ減っていると自分でイメージが沸くような何か付け加えられるなら、ここで出た議論が減るのではないかと思います。</p> <p>また、夢を持って実践できるようにとか、何かのインセンティブを持ってする方策については、各委員から意見がでましたが、計画の中に盛り込む箇所があるかわからないですが、あれば盛り込んでいただきたいと思います。後、企業の事を書くのはなかなか難しいとは思いますが、「計画（素案）P3-24」には「指定ごみ袋の制度の見直しなど…」しかないので、例えば先程言われた食品リサイクルなど、もう少し企業に期待できる何かを入れていただきたいと思います。</p>
委員	<p>「計画（素案）P3-26」の「図表 3-30 本計画におけるごみ減量目標」のグラフですが、右下がりの目標達成指数で、達成できない場合、誰が責任を取るのでしょうか、さっそく来年が減っています。5年間やってきて出来なかったものが、今までの施策の強化、プラントの建設も来年は無理だと思います。それで右下がりは無理で、もっと責任あるグラフにさせていただかないといけないと思います。これでは5年先でなく来年すぐに反省しないといけません。</p>
会長	<p>この審議会で議論した結果でないのかと言われれば、確かに冷や汗が出てしまいますが。</p>
委員	<p>市が何か言われたら、審議会承認しましたと言われると思います。</p>
会長	<p>私はこの資料を少し前に見せていただいたんですが、この審議会での時間で議論するには時間が短すぎだと思います。周南市・岩国市は原単位が少ないので、何で少ないのかデータをいただいて、産業構造の違いが調べてみましたが、そういう理由でもなかったです。こうなってくると、原単位の少ない他市をもっと比較しないといけないという事で、「計画（素案）P3-31」に「⑩先進事例の情報収集」という項目を追加させていただきました。情報収集をして、もう少し論理的に議論できるようにしていきたいです。</p>
委員	<p>すぐ出来るごみ減量としては、ごみステーションに出された月水金ごみを見ていただいたら良いと思います。資源ごみがたくさん入っています。特に紙製容器包装が多いです。袋の下は水が入っていますので、先を少し切って水を出してくださいとお願い</p>

	<p>いしています。パッカー車3台のうち2台は水を運んでいますと何回も周知していかないといけません。何億削減したと言っても市民は対した事ないと思いますので、例えば、学校が改修できますとか公園を整備しますとか、そういった事で市民も納得して分別に協力してくれると思います。</p>
事務局	<p>確かにステーションパトロールを行いますと、紙製容器包装がかなり混入しておりますので、明日からもまた周知啓発をしっかりと行いたいと思います。</p>
会長	<p>色々と御意見がでましたが、本日の議題はこれで終了させていただきたいと思えます。事務局の方に進行お返しします。</p>